

テーマ

# 「失われた10年」はなぜ？

適用分野

マクロ経済、金融政策、経済成長



研究名称

「失われた10年」は総供給サイドの要因とする仮説の検証

氏名所属

寺尾 建 教授  
経済学部 経済学科

内容

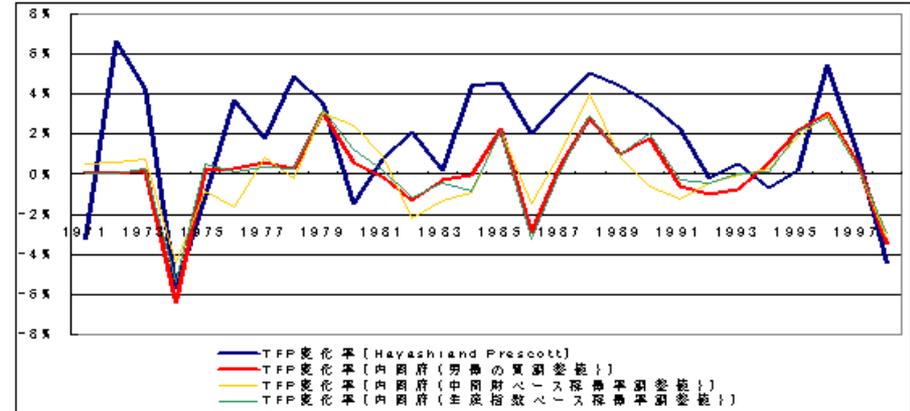
## ●特徴

Hayashi and Prescott仮説—「90年代の日本経済の長期低迷は労働供給量の減少や全要素生産性（Total Factor Productivity=TFP）成長率の低下によりもたらされた」という仮説—の検証。

## ●研究内容

90年代の日本におけるTFP成長率の低下は、既存の実証研究において想定されているほど大きくはない。TFPはマクロ的な技術進歩のみを純粋に反映するものではなく、資本や労働の変化、稼働率の変化等によっても変動する。「失われた10年」の原因としては、不適切な財政政策・デフレ下での不適切な金融政策・不良債権累増による金融仲介機能の低下なども注目されているが、マクロ経済の長期低迷の要因を総供給サイドのみ、あるいは総需要サイドのみに求めるような、一面からの検証には自ずと限界があると考えられる。

89年に勃発した旧共産圏の崩壊により世界的な需給バランスが変化したこと、また、不良債権の不適切な処理・一部企業の救済・メガバンクの誕生などに象徴される現象に結びついたバブル崩壊後の低金利政策の結果として、マクロ経済における金融資源の非効率な配分が持続したことも無視することはできない要因であると推測される。



キーワード

HP仮説、TFP成長率、バブル崩壊、メガバンク

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究